

2022年度「B&G 海洋性レクリエーション指導員」  
第6回センター・インストラクター養成研修 実施報告書

2022.10.28  
事業部 事業課

B&G 海洋性レクリエーション指導員規程 第3条に基づき、下記のとおり研修を実施し、38名が課程を修了したことをご報告いたします。

記

1. 「事業概要」及び「修了試験結果」並びに「登録認定課題」について

【事業概要】

本研修は、海洋性レクリエーション（以下、海レク）活動や水泳指導、地域コミュニティの活性化を担う人材である B&G 海洋性レクリエーション指導員（以下、B&G 指導員）を育成し、習得したプログラムに基づく実践活動を通じて、青少年の健全育成や海への理解促進、地域住民の健康増進、地域の発展に寄与する目的で実施するものである。

2022年度「B&G 海洋性レクリエーション指導員」第6回センター・インストラクター養成研修は、初めての研修開催となる鹿児島県天城町 B&G 海洋センターにおいて、9月20日から33日間の合宿研修を開始することとしていたが、台風14号の影響により、開講式を2日延期、9月22日から全体の研修を開始、10月22日に38名が修了した。

【修了試験結果】

研修生 38名全員が学科試験および実技試験（カヌー、水泳、ロープワーク）に合格。

※修了試験の内容・試験項目・合格基準については、「B&G 海洋性レクリエーション指導員 養成研修の修了試験に関する達」に基づき実施した。

【登録認定課題】

研修修了者は、所属海洋センターにおいて以下の登録認定課題を行い、実施内容を明記した「実績報告書」を2023年8月31日（木）までに提出し、資格の認定・登録を行うこととなっている。

ただし、修了者は4つの登録認定課題の実施・報告する前提であるため、今年度中に指導員登録を行い、前述の期限内に登録認定課題の報告書の提出がない者については、登録済の資格を削除することとして対応したい（2020年度10月修了者と同様の対応）。

◆資格認定条件となる認定課題

- ①（新規項目追加）海洋性レクリエーションの指導または指導補助を行う
- ② 水辺の安全教室の指導または指導補助を行う
- ③ 「リーダー研修」を開催し、3名以上のリーダーを養成する
- ④ 所属する海洋センターの指導者等に研修で習得した内容を伝達する

2. 期間 2022年9月20日（火）～ 10月22日（土）（33日間）

3. 場所 鹿児島県天城町 B&G 海洋センター艇庫、プール、体育館  
 プール、体育館：鹿児島県大島郡天城町大字浅間 177-15  
 艇庫：鹿児島県大島郡天城町与名間石水 6 0 0-7  
 【宿泊施設】サンセットリゾート徳之島  
 鹿児島県大島郡天城町与名間 6 1 0-1

4. 参加者及び修了者  
 男性 30 名、女性 8 名 合計 38 名 ※修了者 38 名  
 (最年長者：43 歳、最年少者：18 歳、平均年齢：29.9 歳) ※参加者名簿 別紙

5. 研修スケジュール及び履修時間  
 履修時間 計 265.5 時間 (規程時間 180 時間以上) ※研修スケジュールは別紙

6. 天城町研修のコロナ対応について

項目	天城町研修 (実績)
基本的な感染防止対策	マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒の徹底
コロナ対策配付物品	不織布マスク、手指消毒液、清拭用消毒液、ペーパータオル、非接触型体温計を配付
事前及び到着時 PCR 検査実施	<u>事前に PCR 検査の実施を必須</u> <u>天城町到着時に抗原検査及び PCR 検査を行った</u>
陽性者の対応	陽性者は退所の対応とする (療養期間終了後に帰京)
発熱等の体調不良者の対応	発熱等の体調不良が発生した際、即隔離し、研修に参加させない
研修開始前の看護師による健康チェック	天城町到着時、看護師による健康チェックを実施
毎日の検温、体調チェック	一日 3 回の体温、健康チェック 教官への報告を必須 体調不良者は即隔離を実施
最寄り空港からの移動手段	台風の影響により、到着便が 9/20、9/21 の 10 便に分かれたため、財団借用レンタカーにて、個別に空港から宿泊施設まで送迎実施
共有スペースの使用制限	大浴場の利用禁止
休務日の対応	休務日の外出禁止
日用品の買い出し・飲酒の対応	部屋の代表者 1 名、かつ、出発時間帯を分けて、3 名以上の密にならないようにした
居室定員	定員 2 名とした
指導スタッフの事前検査	PCR 検査の実施を必須とした

7. 前回からの「改善事項」及び今回の課題について

(1) **40歳超及び20歳未満の研修受け入れについて**

- ・今年度から自治体の強い要望により、20歳未満及び40歳超の参加者を事前にオンライン面談を実施することを条件に、研修へ受け入れることとした。

【結果、今後の対応】

- ・40歳超及び20歳未満の該当者は3名。
- ・3名はそれぞれ水泳賞、水上スキー賞を受賞するなど、研修の中で成績も優秀であり、今後も海洋センターでの活躍が期待できる存在であった。
- ・次年度以降も引き続き、事前のオンライン面談を実施した上で、40歳超及び20歳未満の受け入れを行うこととしていきたい。

40歳超及び20歳未満の該当者

道府県	センター名	氏名	性別	年齢	カヌー	水泳	学科	備考
島根県	浜田市三隅	山田 憲司	男	43	○	○	98	水泳賞 受賞
沖縄県	名護市	西本 竜	男	43	○	○	90	水泳賞 受賞
茨城県	五霞町	菅原 未来	女	18	○	○	94	水上スキー賞 受賞

(2) **ヨット実技の代替など新規カリキュラムの実施について**

- ・天城町ではヨット実技の実施が難しい水面環境であるため、ヨット実技の代替など天城町で以下の新しく導入したカリキュラムを実施した。

【結果、今後の対応】

カリキュラム項目	考察
オープンウォーター実技	研修生の泳力が劇的に向上し、研修序盤でほとんど全員が100mを泳げる泳力を身に付けた 事故を考慮し、海で泳ぐ際にはライフジャケットをつけさせ、安全対策に留意した 泳力向上の効果があつたため、ケガ防止対策を考慮した上で、本部町でも取り入れていきたい
消防 上級救命講習	CPRに加えて、三角巾や傷病者の搬送方法などを学ぶことができた 今まで依頼していた日本ライフセービング協会と比較して、コスト面（発生費用なし）でも、事前の会員登録も不要なため、事務手続きの簡便さでもメリットがある
レクリエーション実習	研修中の海レク指導実習が荒天となった際、雨天プログラムに切り替えた研修生に雨天プログラムを考えさせ、結果、研修中に学んだレク実習を基に体育館プログラムを実施することができ、すぐに活かすことができた 現地での講師による実習にこだわったことで、東京から講師を招聘したが、講師の能力も非常に高く、内容も好評で、研修生が地元に戻り、各種教室で活かすことができる有用なプログラムであるとわかった

	以上の理由から、本部町での実施に向けて、カリキュラムスケジュールを調整したい
アクアスロン実技	開催地にちなんだカリキュラムとして、アクアスロンを実施し、入水できる水辺（プールでも可）があれば、スイムとランだけで、道具も必要ないため、どのセンターでも取り入れることができるものとして、水泳や海レクの幅を広げることができるプログラムであるとわかった
カヌーポロ実技	講師が日本代表選手であり、トップアスリートのスキルを間近で見ることができ、集団で行うカヌープログラムという新しい視点を提供できた 地元に帰ってから、ゴールはなくても、子供たちにもできる形でのカヌーポロを導入したいとの声が多かった カヌープログラムのバリエーションを増やす理由から、本部町での実施に向けて、カリキュラムスケジュールを調整したい
施設管理講習（座学）	研修生からのアンケートで要望が高かったため、実施したところ、「指定管理者制度」を含む、現場の指導者が施設を管理、運営、保守するために必要な知識が学べる内容であり、1日程度に講義内容を集約し、今後も研修に取り入れたいと感じた

【今後の対応、課題】

- ・次年度以降のカリキュラムを精査し、全体の履修時間を維持しながら、調整し、継続的にプログラムに取り入れていくこととしたい。

(3) **各種中間試験の実施及び研修の退所基準について**

- ・6月沖縄での課題として、修了試験に合格できない研修生が発生したことがあげられた。
- ・そのため、今回すべての試験に中間試験を設け、研修生の理解度やカリキュラムの進捗度を図るため、実施した。
- ・また、事前に要項に「試験に合格できない場合」「履修時間が不足する場合」「ルールを逸脱する場合」などについては、退所となり、救済措置がないことを予め伝えた。

【結果】

- ・修了試験では全員が合格し、所定の基準に達したことが確認できた。
- ・退所基準を予め伝えたことで、研修生らの「ルールの遵守」「学びの姿勢」「真摯な取り組み」が見受けられ、研修生がワンチームとなって、まとまりが強いと感じた。

【今後の対応、課題】

- ・中間試験を行うことで、教官側としては、できていない研修生をチェックすることができ、研修生本人としても、危機意識が芽生えるため、今後も中間での試験を継続し、修了試験に全員が合格するようにカリキュラムを進めていく。
- ・本事業では海洋センターに帰ってから活躍する人材を育成する目的で研修を行っているため、退所の基準を要項で伝えることで、自治体からよりよい人材を派遣してもらえることにつながるため、継続して、要項等で伝えていくこととしたい。

(4) **海洋センター指導員の活用について**

- ・天城町での研修は、コロナ陽性者が発生しなかったため、海洋センター指導員の全員が所期の日程でサポートしてもらうことができた。

6月に陽性者が発生した中で、今回の指導員派遣に協力していただいた自治体は非常に理解があるため、改めて、感謝をしたい。

前述のとおり、天城町ではオープンウォーター実技など、新しいカリキュラムを取り入れ、その一部についても海洋センター指導員に実技指導をになっていただいた。

**【結果】**

- ・阿瀬川指導員のように通常の水泳実技だけでなく、オープンウォーター実技も指導できる人材は、稀有な存在であるため、本事業への海洋センター指導員の協力は必要不可欠なであると考える。

**【今後の対応、課題】**

- ・今後についても、ベテランに加えて、若手サポーター候補も派遣依頼を行い、世代交代も意識しながら、引き続きベテラン指導員も活用し、養成研修の実施を支える体制を作っていきたい。

(5) **居室定員2名、研修定員40名について**

- ・沖縄では4名×15部屋確保としていたが、コロナ発生を受け、天城町で居室2名定員、研修定員40名として、実施した。

**【結果】**

- ・10/18朝6:35研修生から体調不良発生の連絡があり、点呼に出れない事態が発生した。6:37にホテルへ連絡し、同室の研修生の部屋を確保し、両名を点呼に出さず、隔離措置、合わせて、抗原検査をすぐに実施することとした。
- ・結果、抗原検査は陰性であり、事なきを得たが、陽性が発生した場合は、同室の研修生も同様に退所となっていた可能性が高い。

**【今後の対応、課題】**

- ・居室定員2名、研修定員40名とし、感染拡大リスクを考慮し、部屋替えを行わなかった。結果として、コロナ陽性者を出さずに、無事に研修を終了することができた。
  - ・陽性者発生、退所の影響を最小限に抑えるためには、次年度6月の沖縄では3名部屋で、研修定員40名での実施が望ましいと考える。
- 2023年度2回目の研修地でも、40名定員で行うことについて、役員へ相談していきたい。

(6) **修了者全員へのアンケートについて ※詳細はアンケートまとめを参照**

- ・沖縄に引き続き研修カリキュラムなどについて、修了者全員からアンケートを取った。

**【結果】**

- ・「内容」については、今後の講師の選定や内容の変更の参考として、検討していく。
- ・「財団への要望」で対応できるところは、今後の研修に活かしていく。

**【今後の対応、課題】**

- ・参加者から意見をもらいながら、改善できるところは改善し、より一層ニーズに合わせて、柔軟にカリキュラムを変更していくこととしたい。

#### (7) **防災重機研修の実施（学科・実技）について**

・沖縄県本部町に続き、企画課から防災重機研修の受け入れ依頼があり、財団が積極的に推進している「防災拠点の設置」事業の重機資格の講習会を養成研修内で行った。

##### 【結果】

- ・事業課アンケートでは、「防災重機研修」の必要性及び講師、内容等は、55%が「必要」、50%が「満足」しているとの回答があった。
- ・夜の講義では、全研修生がアクションカードの振り返りに参加、熊本県湯前町 工藤指導員からの事例を学ぶことができたのは良かったと感じた。

#### 8. 所感（事業課職員）

##### 【東條 剛之】

今回、初めて天城町で養成研修を実施したが、水面状況からセーリング種目の実施が不可であったことから、今まで実施したことがないオープンウォーターやカヌーポロ、水上スキー、レクリエーションの新たな講座を取り入れた。運動負荷強度などの理由で研修生からの評価の差はあったものの、概ね好評だったことから、既存内容の取捨選択をして、今回実施した内容を沖縄でも取り入れていきたい。

養成研修では各種実技指導法や安全対策、気象などの学科を習得させることはもちろんであるが、限られた時間の中で、研修生のチーム力、結束力などを高め、研修修了後も同期の絆を保たせていくことが肝要である。そのためには、教官のカリスマ性を高めることも大切であるが、個人的にはリーダーを上手く使い、研修生で考え行動するように仕向けていき、協働意識を高める手法をとっていきたいと考えている。

なお、個人的に感じた沖縄と天城町との主なメリット、デメリットは以下のとおり。

##### メリット

- ・天城町の全面協力を受けられたため、天候不良などによるスケジュール変更やスタッフ協力などのサポートが手厚い
- ・大潮以外では、リーフ内の水面は波がなく利用しやすい
- ・艇庫の団体利用がある場合も人数規模が小さく、隣のビーチからエントリーできるため、エリアの棲み分けが容易である
- ・バスで移動する必要があるが、体育館や屋内運動場（スパーク）があるため、レクリエーション講習など、陸上の研修を組みやすい。

##### デメリット

- ・沖縄と比較し医療体制が脆弱
- ・マリニピアザと比較すると活動海面が狭い（リーフから出ると外洋になり波とうねりが高くなる）
- ・大潮の期間は、満潮時は波がリーフを越え、干潮時は水深が浅くなるため、海洋性実技の実施が困難になる
- ・ポンツーンがないため、動力艇の係留が容易ではない
- ・艇庫とプールが離れているため、自主トレーニング時にバスや車両での送迎が必要となる

メリット、デメリットについては、事業課内で精査し、その対応について検討していく。

【鈴木 昭正】

6月沖縄実施を受けた課題は、コロナ対策であり、自治体が公費で派遣していただいている以上は、陽性者を一人も出さずに無事に終了することは、至上命題であった。この課題を最低限クリアできたことは、担当課としては安堵した。

天城町で初めて養成研修を開催するにあたり、コロナ対策以外では、「海レク実技実施」「センター体育館への移動」「研修スペース」が研修を実施してみるまで、不透明な部分であり、不安を抱えていた。

「海レク実技」については、最大干満差が約2mあり、我々が想像している以上に、海レク実施に影響を与えるものであった。大きく潮が引いたときに、研修生が乗ったBGカヌーの底が浅瀬に乗り上げる機会も度々見受けられ、安全管理面でも教官は潮汐に対して、より敏感になった。しかし、干満差があるからこそ、外洋からうねりが入るような荒天の時に、潮が引けば、リーフが水面上に現れ、うねりが抑えられ、リーフ内でのカヌーやSUPが実施できるという利点も把握することができた。

「センター体育館への移動」は、33日間の研修期間のうち、17日間BGプールやBG体育館、防災センターへの移動でホテルのバス等を使用し、移動を行った。余裕を持ったバス出発を行うため、課業が始まる40分以上前にホテルフロントに集合し、車両に乗車するなど、出発前の準備時間の短さに研修生は苦勞をしている様子であった。

教官側としては、悪天候や研修生の習熟度によって、課業内容を前日に変更する際に、ホテルへバスをお願いしたところ、一部の日程では、バスの調整がつかず、財団手配及び天城町から借用した車両3台を使ってのピストン移動となったケースもあり、宿泊施設以外への移動の調整、移動時間の確保に苦慮した。

「研修スペース」は、ホテルが新規に2台のエアコンを設置、スペースを空けてもらった艇庫駐車場となりの建屋には、事前に机の設置ができなかったため、最大何名の配置ができるのが不明であった。

研修前の事前準備の段階で、天城町から借用した机と椅子を並べて、40名のスクール形式が取れることが判明し、今回の38名が全員集って座学を行えるスペースが確保でき、滞りなく研修が行えたことはよかった。ただし、選択研修など2グループに分けて座学を行う場合には、宿泊施設内に、2つの研修スペースがないため、その場合は、バスで他の施設へ移動する必要があった。

上記のような懸念事項はあったが、大きなトラブルや事故がなく研修が終了できたのは、天城町の最大限のサポート体制があり、現場の地域指導者会の指導員が動いてくれたことによるものである。これは天城町長と理事長のつながりによるものが大きく、理事長の力添えがあって、終えることができたことは、担当課を代表して、お礼を申し上げたい。ありがとうございました。

研修生全体としては、非常にコミュニケーションが取れていて、特に、後半は教官が伝えた指示を研修生みんなですべて自主的に取り組み、お互いに声をかけながら、効率よく動いており、絆の深さを感じられた。近年の養成研修では、一番のチームワークがある回に出来上がったと感じ、研修生たちの成長に目を見張るものがあった。

今回、初めての開催地で、ホテルとのバス車両の交渉やそれに伴う昼食手配、配達調整など、今までの研修にはない業務が発生し、担当課の負担が大きく、東條部長が来るまでは、鈴木、亀谷の2名体制であったこともあり、当直制を取ることができなかった。

その点は、亀谷さんの負荷が高くなり、本人は非常に苦勞している様子が見受けられた。その分、教官としてカヌー実技では研修生をまとめ、成長を感じさせてくれた。

今後の研修ではスケジュールの中盤から常に当直制とし、例えば、夜の課業前に業務終了する職員と夜の課業後と朝の点呼を担当する職員に分けて、負担軽減していくこととしたい。

本部町との比較では、宿泊施設と艇庫の距離が近い、艇庫と水面の距離が近いことから、移動距離や導線がコンパクトになり、非常に効率よく実施できる部分がある。この点は本部町より優位性がある。

次年度2回研修を行う予定で日本財団助成申請を行っているため、2か所目の開催地については、天城町も含め、他の候補地を整理して、役員相談していきたい。

### 【亀谷 智哉】

6月の沖縄県本部町での養成研修に続き、9月の養成研修は初開催地となる鹿児島県天城町にて実施した。沖縄でのコロナ対応の反省を活かし、コロナ陽性者を一人も出さないことを目標に実施し、38名全員が感染することなく、無事修了することができた。今回、島来する直近日にPCR検査、来島後の抗原検査、PCR検査を行い、持ち込ませないための対策を入念に行った。また、万が一の感染に備え、マスクを外して行う水泳やカヌー等の実技研修をスケジュールの前半に設定せず、体調の経過観察をし、研修を進めたこと、部屋を2人一部屋の少人数制にし、実施できたことで感染した際のリスクに配慮した研修ができた。

沖縄の養成研修とは違いリーフの関係上、ヨット実技は実施できなかったが、その分プールでのカヌーポロ、海でのアクアスロン、水上スキーを取り入れ、今までと違った形での研修が実施できた。研修生同士で励まし合いながら、競技に打ち込む姿勢がみられ、絆が深まる研修となったから、ヨット実技がなくとも研修が成り立つことが立証できた。また、普段センターで行っていないカヌーポロはセンタープールでも簡易的なゴールを作ることで実施できることが分かったため、今後のセンター活動で取り入れていただきたいと思った。

研修の中でカヌー指導をメインに行った。沖縄では主に技術的な部分しか伝えることができなかったが、反省、経験を活かし、研修生に技術的な部分プラス指導方法、伝え方を意識し、指導ができた。そのため、研修生の上達も早く、沖縄の研修よりも質の高い指導となった。また、漕ぐ時間が沖縄での研修よりも長かったのも研修生の上達要因であると考えられる。

座学として、今回初めて実施した選択制の施設管理を取り入れたが、その中の指定管理者制度についての課業は時間が押すほど質問が多く、関心が高い印象を受けた。質問内容は指定管理者制度を取り入れたい直営センターと、既に指定管理として運営しているセンターでの運営方法、自センターはどのような運営方式を取っているのかといった疑問からくるものが多かった。

近年、指定管理者が増えてきたことから、5年に1回管理者が変わることや辞職する者が多いのが現状としてあるため、センターの質が変わってしまうことが多々ある。従って、センター常駐しているのかを追っていく必要と養成研修は財団活動の根幹である地域貢献に対する活動はそのままに、多様性のある研修内容変化していく必要があると感じた。

養成研修は期間が長く、準備、実行ベースで事業課の人員だけでは賄えない部分が多く、今回もサポート指導員、財団教官補助によって無事終えることができた。養成した指導員には、今後とも財団事業にご協力いただきたく思う。また、教官として参加させていただいたことで、多くの自治体とのパイプができたことが研修の一番の財産となった。

## 9. 表彰者一覧

### ①最優秀賞

・桑原 将吾 大分県豊後高田島玉 B&G 海洋センター

#### 【選考理由】

後期リーダーとして、実技試験や学科試験の合格に向けて、研修全体を引っ張り、研修生同士をワンチームにまとめたため

### ②優秀賞

・関 裕也 鹿児島県長島町 B&G 海洋センター

#### 【選考理由】

前期リーダーとして、研修序盤のムードメーカーとなり、全国から集まった研修生をひとつにまとめたため

### ③カヌータイムトライアル賞

・岡村 真鳥 鳥取県倉吉市関金 B&G 海洋センター

### ④アクアスロン賞

#### 個人戦（男子）

1位 岡本 拓也 岡山県瀬戸内市邑久 B&G 海洋センター

2位 小石 貢司 大分県杵築市 B&G 海洋センター

3位 江藤 敦史 兵庫県芦屋市 B&G 海洋センター

#### 個人戦（女性）

1位 牧岡 咲良 B&G 財団

2位 菅原 未来 茨城県五霞町 B&G 海洋センター

3位 西原 英美 熊本県長洲町 B&G 海洋センター

#### リレー優勝 3班

#### リレー個人記録（男子）

1位 長田 修一 山梨県中央市玉穂 B&G 海洋センター

2位 江藤 敦史 兵庫県芦屋市 B&G 海洋センター

3位 岡村 真鳥 鳥取県倉吉市関金 B&G 海洋センター

リレー個人記録（女性）

- 1位 牧岡 咲良 B&G 財団
- 2位 柳瀬 光沙 愛媛県今治市朝倉 B&G 海洋センター
- 3位 西原 芙美 熊本県長洲町 B&G 海洋センター

⑤水上スキー賞

- ・菅原 未来 茨城県五霞町 B&G 海洋センター

⑥水泳賞

- ・西本 竜 沖縄県名護市 B&G 海洋センター
- ・山田 憲司 島根県浜田市三隅 B&G 海洋センター
- ・江藤 敦史 兵庫県芦屋市 B&G 海洋センター
- ・長田 修一 山梨県中央市玉穂 B&G 海洋センター
- ・柳瀬 光沙 愛媛県今治市朝倉 B&G 海洋センター

10. 外部講師及び海洋センター指導員

【外部講師】

氏名	所属団体	内容
政木 孝一他	徳之島地区消防組合	実習：上級救命講習
菅原 哲朗	キーストーン法律事務所	講義：スポーツ施設の法定責任
小峯 力	中央大学 教授	講義：指導者に於ける救急救命と生命倫理
岩崎 由純	日本ペップトーク普及協会	オンライン講義：ペップトーク
津幡 佳代子	日本レクリエーション協会	講義・実習：レクリエーション実習
長原 洋一	さくらインヴァース	実技：カヌーポロ実技
木村 亮太	さくらインヴァース	実技：カヌーポロ実技
柳 堯比古	さくらインヴァース	実技：カヌーポロ実技
工藤 祐直	青森県南部町	講義：B&G 全国指導者会 会長講話
松村 佳明	株式会社山下設計	オンライン講義：スポーツ施設（体育館・武道館等）の維持管理
佐藤 民夫	日本床工事工業株式会社	オンライン講義：スポーツフロアの維持管理
石原 智也	日本スポーツ施設協会公共施設調査研究委員会	オンライン講義：スポーツ施設の劣化と保全
野川 春夫	日本スポーツクラブ協会	オンライン講義：スポーツ施設経営論
秋吉 遼子	東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科	オンライン講義：指定管理者制度
白木 俊郎	株式会社協栄	オンライン講義：水泳プールの維持管理

【海洋センター指導員】

氏名	所属センター	内容
阿瀬川 文輝	島根県浜田市三隅	水泳実技、OW 実技
林 幸太郎	広島県呉市蒲刈	カヌー実技、SUP 実技
古賀 博隆	福岡県朝倉市甘木	水泳実技、OW 実技
中西 浩司	香川県高松市国分寺	カヌー実技
曾根 由多	静岡県牧之原市相良	カヌー実技、レスキュー
長尾 美和	北海道大空町女満別	カヌー実技
飯田 史哉	福井県大野市	カヌー実技
中村 大悟	大分県中津市耶馬溪	水上スキー実技
羽立 友一	大分県中津市耶馬溪	水上スキー実技
工藤 陽平	熊本県湯前町	防災重機研修
種継 武	兵庫県上郡町	カヌー実技、レスキュー

1 1 . 別紙添付資料

- (1) 参加者アンケートまとめ
- (2) 財団からの修了者所感（牧岡、付、入交、大谷、関）
- (3) 教官振り返り・改善点（中島、大久保、栗原）
- (4) 研修スケジュール
- (5) 参加者名簿（都道府県別・班別）
- (6) 修了のしおり

以上